

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	うどんこ病	並	並
	褐斑病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病（防除情報第11号）	やや多	やや多
	コナジラミ類（防除情報第11号）	やや多	やや多
	ハモグリバエ類	並	並
いちご （本圃）	うどんこ病	並	並
	炭疽病（ <i>G.cingulata</i> ）	並	並
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	並	並
	ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや多 多	やや多 多
ブロッコリー	黒腐病	やや多	やや多
	べと病	並	並
	コナガ	多	多
	ヨトウムシ類	少	少
	オオタバコガ	並	並
	アオムシ	やや少	やや少
レタス	灰色かび病	並	並
	菌核病	やや多	やや多
	オオタバコガ	並	並
かんきつ	ミカンハダニ	並	並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

きゅうり

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査（6筆）の結果、発病葉率は6.5%（5.0%）、発生圃場率は50.0%（58.6%）であった。

2. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査（6筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率0.1%、

発生圃場率 5.2%)

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(6筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率0.0%、発生圃場率3.7%)であった。

4. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(6筆)の結果、寄生葉率は8.8%(8.1%)、発生圃場率は83.3%(76.6%)であった。

トマト

1. 黄化葉巻病

平成25年11月13日付け病害虫発生予察防除情報第11号による。

2. コナジラミ類

平成25年11月13日付け病害虫発生予察防除情報第11号による。

3. ハモグリバエ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(11筆)の結果、被害複葉率は1.4%(被害株率4.4%)、発生圃場率は45.5%(49.6%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率1.9%)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病葉や不要な下葉はできるだけ除去し、圃場外へ持ち出し、処分する。

イ 薬剤は、古葉等を除去処分した後に、葉裏や下位葉にもむらなくかかるように分量を散布する。

ウ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は11.1%(6.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発病及び枯死した株は、伝染源となるので見つけ次第速やかに圃場外に持ち出し、圃場周辺に放置しない。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は3.8%(2.0%)、発生圃場率は33.3%(23.6%)であった。

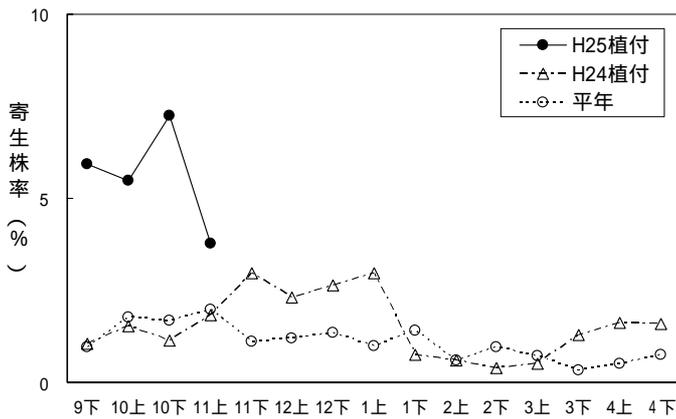


図 いちご アブラムシ類 寄生株率の推移
平年: H15 ~ H24の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H24の平均値

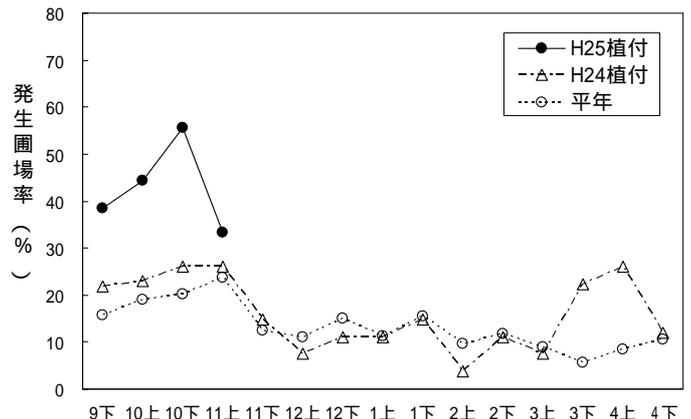


図 いちご アブラムシ類 発生圃場率の推移
平年: H15 ~ H24の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H24の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 特に花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。
- イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は2.8%(2.2%)、発生圃場率は25.9%(23.1%)であった。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、食害株率は4.7%(3.4%)、発生圃場率は51.9%(45.8%)、寄生株率は1.6%(0.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期に防除を行う。
- イ 薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。

6. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.5%(過去4カ年平均0.0%)

発生圃場率は22.2%（同2.8%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期に防除を行う。

イ 薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は9.7%（過去6ヵ年平均1.4%）、発生圃場率は33.3%（同11.1%）で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は予防的に実施し、初期感染を防ぐ。

イ 降雨や強風の後にはできるだけ速やかに薬剤防除を行う。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(同 発病株率0.1%、発生圃場率2.8%)。

3. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は19.7%（同4.4%）、発生圃場率は91.7%（同45.8%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤の連用はしない。

4. ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ、ヨトウガ）

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は0.3%（同2.5%）、発生圃場率は8.3%（同29.2%）であった。

また、ヨトウガの寄生株率は0.3%（同2.6%）、発生圃場率は8.3%（同27.8%）であった。

5. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.3%（同0.7%）、発生圃場率は25.0%（同12.5%）であった。

6. アオムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(1 2 筆)の結果、発生を認めなかった(同 寄生株率 0.7%、発生圃場率 9.7%)。

レタス

1. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 1 1月上旬の巡回調査(1 5 筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
イ 向こう 1 か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1 1月上旬の巡回調査(1 5 筆)の結果、発病株率は 0.1% (0.0%)、発生圃場率は 13.3% (2.7%)であった。

イ 向こう 1 か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布は、下葉の基部にも薬剤が十分に付着するよう丁寧におこなう。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(1 5 筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率 0.1%、発生圃場率 2.7%)

かんきつ

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(3 6 筆)の結果、寄生葉率は 7.0% (6.1%)、発生圃場率は 63.9% (51.2%)であった。

【参考】

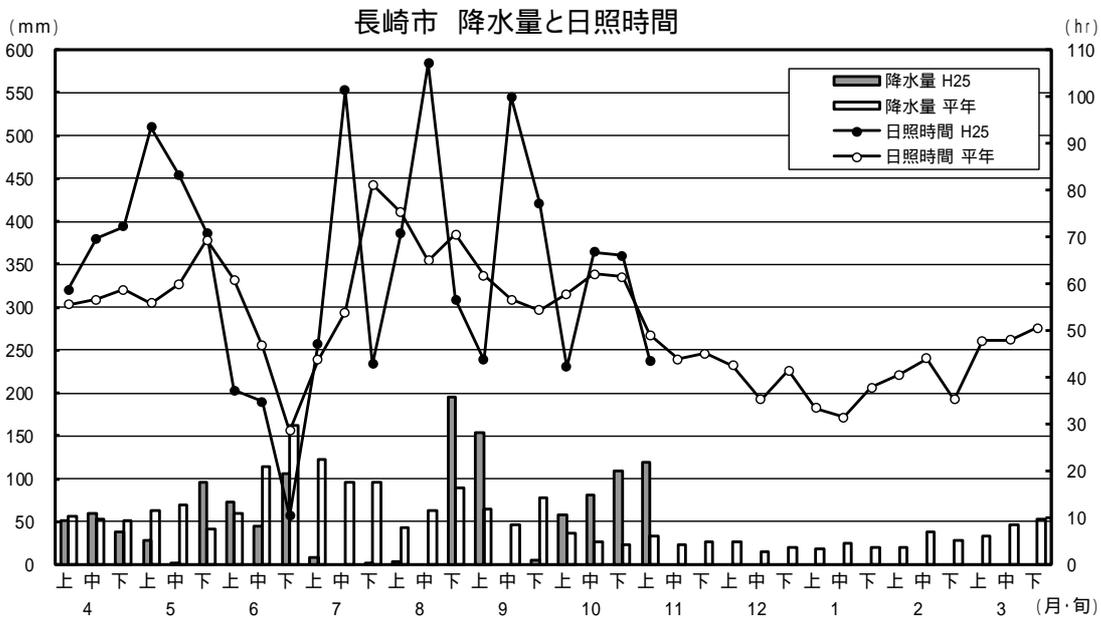
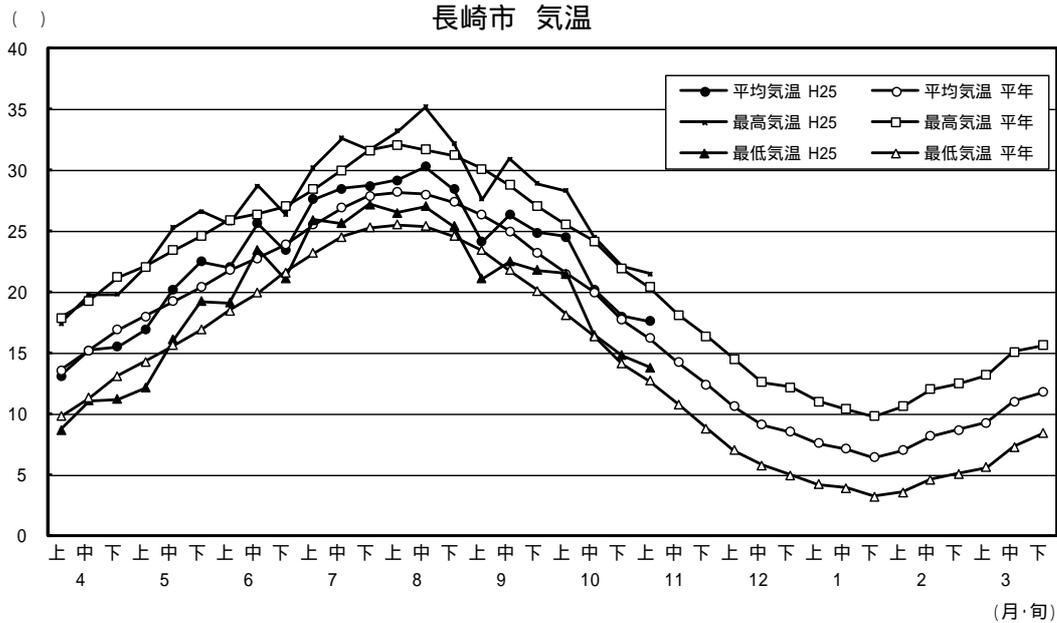
気象 (平成25年11月8日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	40	40	20
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

予報対象地域：九州北部地域

平成25年度の気象経過 (長崎海洋気象台)



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027